



高齡運転者の交通事故発生状況

令和7年3月末

1 高齡運転者事故の発生状況

令和7年3月末現在の高齡運転者（65歳以上の運転者）が第1当事者となった人身交通事故（一般原付以上）は、前年と比較して、発生件数、死者数及び負傷者数とも増加しています。

【高齡運転者事故発生状況】（令和7年3月末速報値）

区 分		発生件数	死 亡 事 故		負 傷 者 数		
			件 数	死者数	重 傷	軽 傷	計
本 年		248	3	3	27	271	298
前 年		243	2	2	28	256	284
増 減	数	5	1	1	-1	15	14
	率	2.1	50.0	50.0	-3.6	5.9	4.9

【高齡運転者死亡事故発生状況】（令和7年3月末速報値）

No.	発生年月日等										第1当事者		第2当事者			
	年	月	日	時	曜	昼夜	天候	発生場所	路線	形状	事故類型	死亡	種別	高齢者	死亡	種別
1	7	2	3	9	土	昼	曇	仙台市太白区八木山	市道	カーブ	四輪車単独	◎	軽乗	-	-	-
2	7	3	2	15	日	昼	晴	仙台市青葉区藤松	県道	直線	四輪対四輪	◎	軽乗	-	-	軽乗
3	7	3	13	10	木	昼	晴	川崎町大字前川	県道	三叉路	四輪車単独	-	軽乗	-	-	-

※は第3当の歩行者が死亡

2 高齡運転者事故の発生推移（基礎データ平成27年～令和6年）

発生件数は、平成29年から減少傾向ですが、令和4年及び令和6年は増加しました。

全人身交通事故が10年間で56.1%減少（平成27年8,624件→令和6年3,785件。-4,839件）しているのに対し、高齡運転者事故は30.8%の減少（平成27年1,534件→令和6年1,062件。-472件）にとどまっています。

全人身交通事故に占める高齡運転者事故の割合は増減を繰り返しながら上昇傾向が続いており、令和6年は前年より増加しました。



区 分	27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年	4年	5年	6年
交通事故発生件数	8,624	7,986	7,491	6,815	5,675	4,487	4,286	4,117	4,033	3,785
高齡運転者事故件数	1,534	1,603	1,500	1,458	1,294	1,148	1,002	1,076	1,036	1,062
占める割合	17.8	20.1	20.0	21.4	22.8	25.6	23.4	26.1	25.7	28.1
死 者 数	21	17	17	16	12	14	13	13	14	12
負傷者数	1,931	2,014	1,811	1,752	1,565	1,402	1,148	1,271	1,247	1,265
死傷者数	1,952	2,031	1,828	1,768	1,577	1,416	1,161	1,284	1,261	1,277

※百分率は小数第二位で四捨五入するため、合計が100%にならない場合があります。

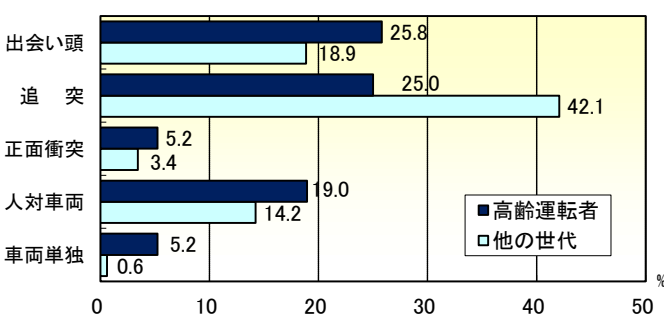
3 高齢運転者事故の発生特徴等（基礎データ令和7年3月末速報値）

(1) 追突、出会い頭事故で約5割を占める

事故類型別では、出会い頭事故の構成率が25.8%（248件中64件）と最も高くなり、他の世代と比較して6.9ポイント高くなりました。次いで追突事故の構成率が25.0%（62件）と高くなっています。

また、人対車両事故の構成率が19.0%（47件）で、他の世代と比較して高くなっています。

【事故類型別発生状況(構成率)】



(2) 交差点、駐車場等の構成率が他の世代より高い
道路形状別では、交差点の構成率が48.0%（248件中119件）で、他の世代と比較して11.5ポイント高くなっています。

また、店舗や病院の駐車場等「一般交通の用に供するその他の場所」の構成率が8.5%（21件）で、他の世代と比較して3.7ポイント高くなっています。

駐車場等での事故の行動別では、後退時が47.9%（21件中11件）で最も高くなっています。

なお、駐車場等でのアクセルとブレーキの踏み違いやギアの入れ違い等の操作不適による事故は2件発生しています。

【道路形状別発生状況(構成率)】

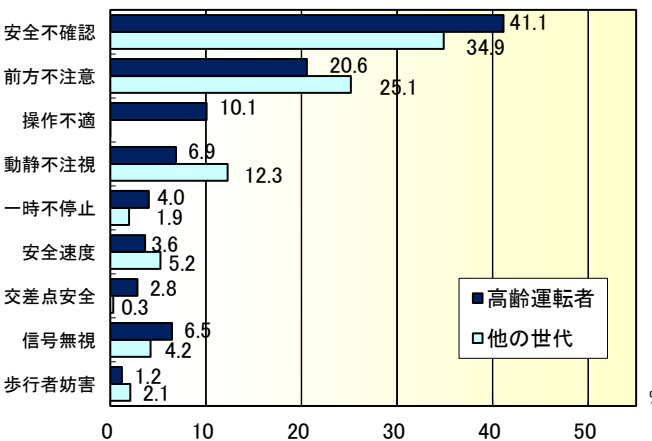
区分	交差点	交差点付近	直線	カーブ	駐車場等	その他	計
高齢運転者	48.0	10.9	29.4	3.2	8.5	0.0	100.0
他の世代	36.5	20.8	35.5	2.4	4.8	0.0	100.0
差	11.5	-9.9	-6.1	0.8	3.7	0.0	-

(3) 安全不確認による事故が多い

違反別では、安全不確認が最も多く、構成率が41.1%（248件中102件）で、他の世代と比較して6.2ポイント高くなっています。

また、操作不適、一時不停止、交差点安全、信号無視の構成率が、他の世代と比較して高くなっています。

【違反別発生状況(構成率)】



(4) 免許人口に対する事故率が高い（基礎データ令和2年～令和6年）

免許人口1万人当たりの、第1当事者（一般原付以上）の年代別死亡事故発生件数は、1年間当たり高齢運転者が0.33件で、全年代平均（0.27件）の1.22倍となりました。

特に、75歳以上の運転者は0.44件と、全年代平均の1.63倍、74歳以下の運転者（0.25件）の1.76倍に達しました。

【免許人口1万人当たりの死亡事故件数(令和2年～令和6年 5年間)】

第1当年齢	免許人口	事故件数	免許人口1万人当たり(年に換算)		
				平均との差	同 倍 率
～24歳	102,368	27	0.53	0.26	1.96
25～29歳	95,748	5	0.10	-0.17	0.37
30歳代	222,109	28	0.25	-0.02	0.93
40歳代	293,778	33	0.22	-0.05	0.81
50歳代	296,748	32	0.22	-0.05	0.81
60～64歳	128,875	14	0.22	-0.05	0.81
65～69歳	126,780	19	0.30	0.03	1.11
70～74歳	124,420	15	0.24	-0.03	0.89
75歳～	144,175	32	0.44	0.17	1.63
(高齢運転者)	395,375	66	0.33	0.06	1.22
計(平均)	1,535,001	205	0.27	0.00	1.00

(件) 【免許人口1万人当たりの死亡事故件数】

